

清秋

すつきりとした空が広がり、空気も清らかに澄んだ秋を表す言葉。手紙の挨拶での「清秋の候」は、暦上では秋の終わりの時候の挨拶として使われ、刹那を感じます。



秋を迎え、農人やねぎたちにとっても心地良い季節。夏の終わりではありますが、私たちにとっての台風対策期間は今月末まで。気を抜くことなく、自然と向き合い、ねぎ作りを行っています。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

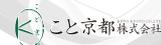
今年一番、手間暇かけた最後の夏葱たち

美山・丹後の夏葱。この時期は2作目の圃場が多く、軟腐病による欠株に悩まされますが、今年は特にゲリラ豪雨とその後の強い日差しが重なり、例年以上の被害が見られました。収穫後の株元殺菌など徹底した対策を行い、被害の広がりを食い止めることに力を注ぎました。とはいえ、自然の影響を完全に抑えることは難しく、全体の収量は減少し、暑さの影響でやや細めになっています。「きれいなねぎをお届けしたい」という思いで、1年の中で最も手間暇をかけて仕上げたねぎです。



NO.221

2025年10月号
TEL: 075-601-0668



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信



定植作業で活用する定植機、あらゆる畑で稼働しています！



干した苗から新しく伸びていく九条ねぎ、生命力の強さを感じます。

秋の訪れ、先の来春を見据えての作業開始

今回の夏の台風上陸については大きな被害も受けることなく、農人一同ほっと胸をなでおろしています。厳しい暑さが9月中旬頃まで続きましたが、10月に入って気温が徐々に下がり始めたことで、ねぎの色ツヤもぐっと良くなっているのが、毎日ねぎの表情を見て感じています。ねぎにとって心地よい環境は、人にとっても農作業のしやすい環境。暑い中とても大変だった収穫作業も、今は涼しい風を感じながら気持ちよくできるようになってきています。一方、10月は1年の中でも作付けのピークを迎える時期です。限られた時間の中で、来年に向けての作付けを進めています。また、この夏を乗り越えた圃場では欠株も多く、通常の定植に加えて切苗取りや補植作業も並行して行うため、例年以上に慌ただしい毎日です。それでも、一日一日を大切にしながら作業に取り組み、皆さまにより良いねぎをお届けできるよう努めています。

とある日の農人日記。

定植を終えたとある圃場は、雨あとだと畝間で長靴がハマる箇所もあるくらい泥濘むぐらい乾きにくい畑です。このような乾きの悪さを感じると、無事に畝立てが完了していて本当に良かったと改めて思います。(亀岡・甲斐)



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。